



これはなに？

壁に描かれた絵画

馬喰町の一角、ちょうどスカイパーキングの向かいにある家の壁に、色彩も鮮やかに描かれたこの絵画。通りを行き来する人たちも思わず足を止めそうな、不思議な迫力を漂わせています。

実はこれ、小池さんというお宅の壁で、描いたのは小池伸子さん・24歳。現在は神奈川県にお住まいですが、「今年の春に帰郷した際、スカイパーキングができて通りもとてもきれいになっていたので、家の壁にも何か描きたいと思った」とのこと。美術大学にも籍を置いたことがあると聞いて思わず納得です。イメージは「インカの太陽」。でも、雨のため筆がとれたのは1日だけで、まだ未完成なんだそうです。まさに「未完の大作」、ですね。

夢中 熱中 青春ライフ! クローゼット

42

大館市第2婦人消防隊

平成3年10月に誕生した大館市の女性消防団(第25、26分団)。今回ご紹介するのは、9月に岩城町で開催された第31回全県消防操法大会「軽可搬式ポンプの部」で見事優勝し、全国大会への出場を決めた第26分団(第2婦人消防隊)です。

最初はみんな軽い気持ちで入団したんですよ。募集の時にボランティアのようなものだからとわかって、社会のために何か役に立つのならと思っただけです。でも、やってみるとこれが大変でした(笑)。出初め式は寒いし、今回のような大会に出るとなると訓練も結構きついですよ。

今年は、県大会の三週間ほど前から、日曜日を除いて毎晩六時半ごろから九時、十時まで訓練しました。ホースを延ばすなどの基本動作は、ビデオで確認しながら細かな点まで何度も繰り返し訓練しましたから、「夢にも出てきた」という人もいたんです(笑)。そんな猛練習の甲斐があつて、チームの結束も強まり優勝できましたけれど、やはり、時間的にも家族の理解が無かつたら無理だったと思います。メンバーは独身が一人です。

あとはみんな主婦ですから。何かとフォローしてくれて他の分団員の協力にも感謝しています。来年十月の全国大会では、きっと新記録で金メダルを持ち帰るつもりです。そして、今後も女性の特性を生かして、地元に着した活動を続けたいと思っています。



さあスタートです。(奥村牧子隊長、高橋直美・佐藤妙子・渡部貴子・富沢真紀子隊員)

大館の方言講座

「衣」に関する言葉

- ◆アガドリー敷布
- ◆アネコカブリーはおのところで軽く止めただけの、ほおかぶりの一種
- ◆ケリーアイヌ語の「くつ」。大館地方では革・ゴム製のものだけに使った
- ◆シビブトンシビ(やわらかなわら)を入れた敷布団
- ◆タナー幼児をおぶう時の帯
- ◆ハンチャー襟は折らず、黒襟などをかけた略式の羽織のようなもの
- ◆ドブゲー綿入りのハンチャ
- ◆メヤダリー前かけ、エプロン

『大館市史』から

9月のテーマ関連図書コーナー 『古都』
 親子読みかかせ会 毎月第1金曜日 14時30分
 中央図書館の休館日 10月16日、27日、11月3日

児童書

◆まねやのオイラ(森山京) ◆ピーマンマンとかぜひきキン(さくらともこ) ◆スクールバスの子ねこ(シャーマット) ◆時の石(那須正幹) ◆かぎばあさんのサンタクロース(手島悠介) ほか



一般書

医療ルポには、先端技術礼賛、医療体制告発、患者との人間的交流物語などが多いが、大部分の医療現場はもっと普通で、もっと地味で地道である。至極当たり前の医者さん八人とじっくり話した記録。

◆リンボウ先生、イギリスへ帰る(林望) ◆仮の約束(多田尋子) ◆読みなおす一冊(朝日新聞学芸部) ◆わたしが泣くとき(黒木瞳) ◆水木しげるのラバウル戦記(水木しげる) ◆クイーン談話室(エラリー・クイーン) ◆メダルと恋と秘密警察(カタリーナ・ビット) ◆アフリカを知るための10章(那須国男) ◆狩物見隊頭末(葉治英哉) ◆失われた文明を求めて(木村重信) ◆世界は一冊の本(長田弘) ほか

『ブラック・ジャックにはなれないけれど』
 中央図書館新着図書
 私の本棚

永井明 著 飛鳥新社